


発行所  
 社会福祉 長野県身体障害者  
 法人福祉協会  
 長野市若里7-1-7  
 TEL 026 (228) 0317  
 E-mail: nagasin@avis.ne.jp  
 編集発行人 小林 和夫



日身連バツチ

### 新春を迎えて

長野県知事 阿部 守一



新年明けましておめでとう  
 ございます。謹んで新春のお  
 慶びを申し上げます。県民の  
 皆様には、旧年中、県政の推  
 進に対して格別の御支援、御  
 協力を賜り、誠にありがとう  
 ございます。

県内に甚大な被害をもたらした台風第19号災害  
 から2か月半が経ちました。お亡くなりになられ  
 た方々に改めて哀悼の意を表しますとともに、被

### 新年のあいさつ

理事長 小林 和夫



新年明けましておめでとう  
 ございます。皆様には穏やか  
 に新年をお迎えの事とお慶  
 び申し上げます。昨年は、台  
 風十五号による風害や、更に  
 十九号による想定を越える大水害を長野市を中心  
 に全国的に受けた大変な年でした。被害を受けた皆様  
 に衷心よりお見舞い申し上げます。

障害者差別解消法が施行されて四年を経過しよ  
 うとする今日、県は「長野県障がい者共生社会づく  
 り条例（仮称）」の策定作業を急いでいます。そこ

今年の県政運営に当たっては、次の視点を踏まえ  
 て取り組む考えです。

まずは、今回の災害も踏まえ、命の尊さに改めて  
 思いを致し、『命を守る県づくり』を推進します。

被災した道路・河川や各種施設の本格復旧につい  
 ては、災害に対してより強靱な地域をつくるという  
 視点も持ちながら取り組みます。また、防災・減災、  
 国土強靱化のための3か年緊急対策等による重要イ  
 ンフラ整備や、「災害時住民支え合いマップ」の策  
 定支援などのソフト対策により、災害に強い県土づ  
 くりを進めます。

この他、持続可能な地域医療提供体制の構築、高  
 齢ドライバーの交通事故対策、未成年者等の自殺対

は「心のバリアフリー」、「社会モデルに基づく街づ  
 くり」、「具体的な差別を解決する組織づくり」の三  
 点を大きな柱として盛り込むように要望をしてい  
 ます。

「心のバリアフリー」に関連して、差別の具体例  
 を体系的に分類して、出来るだけ数多く条例に反映  
 する必要があります。「差別」は差別を受けている  
 当事者でないと理解できないケースが数多くありま  
 す。それらのケースをできるだけ多く条例に反映さ  
 せる必要があるのです。皆様からの事例の報告のご協  
 力をお願いします。条例に明示した差別は、長野県  
 とが条例の一番の目的であります。更に、将来的に  
 時代が変わると、これまでとは異なる新たな形態の

策などにも力を入れてまいります。

二つ目に、本県に暮らす若い世代が、個性を活か  
 し、希望を持って暮らすことができるよう『将来世  
 代を応援する県づくり』を推進します。

幼稚園・保育所から高校まで各段階での学びの質  
 を高める「学びの改革」、貧困等困難を抱える子ど  
 もやその家庭への支援が重要であることから、安心  
 できる居場所づくりや学習機会の確保などにも取り  
 組みます。

障がいの有無にかかわらずお互いを理解し尊重す  
 る「共生社会」を目指した取組を推進し、SDGs  
 が掲げる「誰一人取り残さない」社会の実現を図つ  
 てまいります。

今年は、私にとりまして知事就任10年という大き  
 な節目の年となります。今後とも初心を忘れず、県  
 民の皆様の確かな暮らし実現のため、全力を尽くし  
 てまいります。

結びに、今年一年の皆様の御健康と御多幸をお祈  
 り申し上げます、新年の御挨拶といたします。

差別の発生も想定されます。条例は、将来的なこれ  
 等のケースにも対応していかなければなりません。  
 そのためには皆様からの時間経過に伴う、新たな差  
 別の事例の継続的な報告に期待するところです。是  
 非、ご協力をお願いします。

結びに、皆様のご健康とご多幸を祈念して、年頭  
 のあいさつといたします。



第70回長野県身体障害者福祉大会が令和元年8月29日(木)大町市文化会館大ホールにおいて県下各地から約654人が参加して盛大に開催されました。

第1部の講演会では、リオデジャネイロオリンピックでバドミントン女子シングルスで初めて銅メダルを獲得した奥原希望選手の御尊父、奥原圭永様から「父親として子供と関わったこと」くオリンピックメダリストを育て

# 長野県身体障害者福祉大会 8月29日(木)



た経験からと題してご講演をいただきました。

前半はスライドショー

の上演で、後半は写真を交えての、世界的なアスリートに成長していく奥原選手についてのお話でした。それらすべてに、父親としての厳しくも深い愛情が感じられ、勉強になった講演で、参加者の方々から大変好評な感想をたくさんいただきました。

第2部の式典では、小林和夫長野県身体障害者福祉協会理事長からのあい

さつの後、開催地大町市の牛越徹市長から歓迎の言葉をいただきました。

その後、それぞれの分野で功績のあった方々や、団体に対し知事表彰及び理事長表彰・感謝状の贈呈が行われ受賞者を代表して安曇野市の望月熙史様が謝辞を述べられました。

来賓祝辞、来賓紹介、祝電披露と続き議事に移り、第70回大会の処理報告後、力強く大会決議、大会宣言が発表され無事終了となりました。

地元大町市や大町市社会福祉協議会、大町市身体障害者福祉協会の皆様のご協力により、滞りなく進めることができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

## 知事・理事長表彰受賞者名簿

○社会福祉表彰―障がい者福祉分野 (6名)

望月 熙史 (安曇野市)

小泉 和男 (佐久市)

川角 和子 (安曇野市)

綿貫 好子 (須坂市)

土屋 達夫 (北佐久郡軽井沢町)

音の散歩道 (上田市)

○県協会役員6年以上在職し顕著な功績のあった者(3名)

原 彦太郎 (東筑摩郡筑北村)

小林 誠二 (上高井郡高山村)

山岸 厚 (須坂市)

○郡市協会役員8年以上在職し顕著な功績のあった者(3名)

両角 幾雄 (東御市)

柳沢とよ子 (東御市)  
常田 綾子 (飯山市)

○重度障害の妻を助けた夫で他の模範である者(2名)

中島今朝雄 (大町市)  
金澤 次男 (長野市)

○感謝状の贈呈(1団体)

大町市身体障害者福祉協会(大町市)

## 受賞者あいさつ

安曇野市 望月 熙史

この度は、長野県知事並びに県身障協会理事長より、栄誉ある表彰状を賜りましたことは、誠に身に余る光栄でございます。厚く御礼を申し上げます。

受賞された方々は、それぞれのお立場で、長年にわたり、障害者福祉の向上と、障害者が地域社会の中で安心して、自分らしく暮らせるように、日夜尽力なされてこられたことと思います。

私事にわたりますが、私の、活動の原点は、今から26年前、平成5年に実施された、県協会による第1回ふれあいの旅事業であります。この事業で私はアメリカ、カナダを視察・研修いたしました。当時アメリカは、世界中で話題となっていた、ADA法、いわゆるアメリカ障害者法が、正に実効性のある法律として、社会を大きく変えていく只中(ただなか)にありました。私は、その現場において、活躍する、同じ障害者の仲間たちの、はち切れんばかりに明るく、たくましい、チャレンジ精神に圧倒されました。社会参加の推進は、あ

くまでも障害当事者が主体、アイデアにあふれ、実際の、実に効率的、効果的。障害者の人権と社会の経済性がぎりぎりのところまで突き詰めて考えられ、話し合われ、決定される。その決定過程の透明性、合理性。そして社会がこうした、人権と経済性のいわばせめぎ合いの中で、着実に、良い方向に発展していくのだという、楽観的で、実に懐の広い、社会全体のコンセンサス。私には、何もかもが、本当に衝撃的でした。私はそれ以来、この経験、知見を活かし、障害者こそが地域福祉向上のプロモーター、推進役である、推進役にならねばならぬという確信をもって、皆のチャレンジ精神を鼓舞するとともに、県協会等、組織においての、時代に先駆けた改革、地域企業との連携等に邁進することになりました。

しかし、こうした活動は、もちろん、私一人で出来るものではありません。行政を初めとして、一緒に活動する仲間や家族、地域の方々の温かい、ご理解とご支援があったればこそと、お世話になった皆様方に、厚く御礼を申し上げます。

私たちが受賞者一同は、今回の栄誉を励みといたしまして、今後とも、それぞれの活動に注力し、障害の有無にかかわらず、お互いを尊重し、支え合う社会づくりに向けて、一層貢献してまいります。

今後、障害者福祉が、ますます進展することを祈念して、謝辞といたします。

## 大会宣言

長きにわたる、私たち障害者の切なる要望により、差別解消のための条例が、ついに実現することになったこの時、全县から多くの仲間が参加し、記念すべき70回を数える、歴史と伝統を持つ、長野県身体障害者福祉大会を開催することができました。

今、過去を回顧し、将来を展望する時、着実な歩みを進めてきた、私たちの諸活動こそが、地域社会における、福祉の向上への貴重な貢献であり続けてきたこと、そしてその貢献によって培われてきた、社会文化的伝統こそが、新しい、共生社会実現のための起点となっていくことを、ここに確認します。そして、これを、さらに広く深く発展させていくために、今、私たちは声を上げ、行動していきます。

いよいよ来年に迫った、2020年、パラリンピック東京大会は、障害者理解への関心が高まる絶好の機会です。国の「ユニバーサルデザイン2020行動計画」の二つの柱、「ユニバーサルデザインの街づくり」の実現と、「心のバリアフリー」を地域に根づかせることを第一に、共生社会の実現に向けて突き進んでいきます。

私たちは更なる前進を目指して、県内障害者団体と連携して、一致団結して行動することを誓い、ここに宣言します。

令和元年8月29日

第70回長野県身体障害者福祉大会

## 大会決議

第70回長野県身体障害者福祉大会において、次の事項を決議し、この実現を図る。

- 一、 実効性のある差別解消のための条例の制定を要望する
- 一、 障害の社会モデルの理解啓発を強く推進するよう要望する
- 一、 福祉のまちづくりに障害者の知恵や工夫が活かされることを要望する
- 一、 地域の相談支援体制に身体障害者相談員を活用することを要望する
- 一、 障害者の立場に立った被災者支援の充実を要望する
- 一、 障害者福祉施策に係る予算の充実確保を要望する

以上決議する。

令和元年8月29日

第70回長野県身体障害者福祉大会

## 大会スローガン

- ◎ 実効性のある差別解消のための条例の制定を要望しよう
- ◎ ユニバーサルデザイン2020行動計画の完全実施を求めよう

## 健康福祉部長との懇談会

10月28日(水)



策定に当たっては、大学教授、弁護士、有識者、障がい当事者で構成される「社会福祉審議会 障がい者権利擁護専門」で検討を行っており、6月から月1回のペースで検討を行っております。

また、条例制定については、障がい者をはじめ多くの方から意見をお聞きすることが大切と考え、様々な団体から意見聴取を行い、その結果を分科会で報告し、参考とさせていただきます。

更に、県民の意見も重要であることから、意見募集を行っているほか、今年度から始まった「政策対話」で「共生社会づくり」をテーマに行い、23名の方にご参加いただきました。これらの意見についても、分科会で報告しております。

○ ご指摘のとおり「社会モデル」の考え方は、非常に重要な概念であり、条例にも取り入れていきたいと考えております。

○ また、周知・啓発についても、効果的な周知・啓発方法について、検討したいと思います。

○ 今後も策定に当たっては、障がい当事者や支援者、事業者団体、県民との意見交換を十分に行いながら進めてまいります。

正副理事長が、県庁本館302号会議室において、健康福祉部長と懇談し、第70回長野県身体障害者福祉大会で決議された以下の事項を要望しました。直近の台風19号の甚大な被害に対して、昼夜ご尽力いただいている事と現在検討中の新条例についての経過報告等お話をいただきました。

1 実効性のある差別解消のための条例の制定を要望する。

〈回答要旨〉(障がい者支援課)

○ 「長野県障がい者共生社会づくり条例(仮称)」については、本年度中の制定を目指して業務を進めております。

2 障害の社会モデルの理解啓発を強く推進するよう要望する。

〈回答要旨〉(障がい者支援課)

○ 引き続き障がい者団体等と協力しながら障がい者就労や障がい者差別解消の取組と合わせて運動の展開を図ってまいります。

○ 地域の役員に対する身体障害者の「障がい特性」の理解についても、あいさポーター研修やあいサポートメッセンジャー研修の内容を工夫する等により、啓発を図ってまいります。

3 福祉のまちづくりに障害者の知恵や工夫が活かされることを要望する。

〈回答要旨〉(地域福祉課)

○ 障がい者が計画の初期段階から設計に参画できる機会を設けることについて、平成30年度と同様に、引き続き、関係部局と調整したいと考えております。

○ 民間事業者の施設に対するバリアフリー化のための助成制度については、国の補助制度に注視しつつ、必要に応じて、事業化を検討してまいります。

4 地域の相談支援体制に身体障害者相談員を活用することを要望する。

〈回答要旨〉(障がい者支援課)

○ 障害者総合支援法第2条の規定により、ピアカウンセリングを含む障がい者(児)の一般的な相談支援は

市町村が担い、県は専門性の高い広域的な相談支援を担うこととされているところ、県において、身体障害者福祉法第12条の3第2項の規定により市町村又は圏域障がい者総合支援センターに身体障がい者相談員を配置している実績はありません。

なお、身体障がい者を対象としたピアカウンセリングは、77市町村中、32市町村(41・6%)において実施しております。

○ 要望内容については、県としても重要性を認識しており、今後も長野県自立支援協議会障がい者相談支援体制機能強化会議等を開催し、ピアサポートの理解促進及びピアサポートの養成促進(スキルアップ含む)や、障がい当事者のエンパワメントの視点を含めた地域の相談支援体制の強化・充実に関する取組について情報提供や意見交換を通じて、市町村(圏域障がい者総合支援センター)の後方支援に努めてまいります。

○ 相談支援従事者養成研修において、今後も障がい当事者講師やピアサポーターへの協力依頼を進めることで、ピアサポートの重要性の理解促進とともに、ピアサポーターの活動及びスキルアップの場としても活用していただき、障がいのある方やその家族に寄り添ったきめ細やかな相談支援体制が更に充実するよう継続して支援してまいります。

5 障害者の立場に立った被災者支援の充実を要望する。

〈回答要旨〉(危機管理防災課)

○ 災害対策に向けた会議や委員会への身体障害者福祉協会等、障害者団体の参加について

災害対策の推進に係る団体として、身体障害者福祉協会などの障害者団体のほか、女性団体、福祉団体、労働者団体等、多くの関係団体や機関が存在しております。

県の防災行政を推進するために、担当部局と関係団体等とが十分に協議を重ね、その結果を総合的に取りまとめながら進めることが重要と考えておりますので、協議への障害者団体の参加について、健康福祉部をはじめとする関係部局に対し働きかけてまいります。

なお、市町村に対しても、会議等へ参加できるよう依頼してまいります。

○ 防災フェア等の開催や障害者の立場に立った被災者支援について

県総合防災訓練では、展示コーナーを設け、企業などによる最新の取組を紹介しておりますので、障害のある方も利用しやすいよう、展示方法などをさらに工夫してまいります。

この他にも、県政出前講座や地域が実施する防災訓練等を通じて、地域で支え合う仕組みづくりの推進を図ってまいります。

○ (健康福祉政策課)

障がい者の立場に立った被災者支

援について

防災訓練を障がい当事者の参加を得た形で実施することは、災害時における要配慮者の避難支援体系が実際に機能するか等を検証するうえで重要であり、県では、毎年実施している総合防災訓練において、企画段階から障がい当事者団体に参加いただく体制で訓練を行っております。

○ 県としては、引き続き広域的な福祉避難所の指定を市町村へ呼びかけるとともに、市町村に対し、福祉避難所を設置・運営するまでの手順を確認する訓練を要配慮者の参加を得た形で実施するよう要請してまいります。

6 障害者福祉施策に係る予算の充実確保を要望する。

〈回答要旨〉(障がい者支援課)

○ 高齢化等による社会保障関係費の増加により、国・県・市町村の財政事情は大変に厳しい状況にあり、今後は不透明さを抱えながら、より厳しさを増すことが見込まれております。

○ このような状況ではありますが、障がい者の皆様が地域で安心して暮らすしていくことができるよう、国の動向を十分に把握しながら必要な予算の確保に努めるとともに、障がい者福祉施策が後退しないよう市町村とも連携して施策の推進に努めてまいります。

# つねこ短歌

伊那身障協会 斧研つね子

平成8年突然脳梗塞となり半身不随の後遺症が残った。その後身体障害者の仲間入りをさせていただき新しい世界を知ることができた。残った右手でできることをしようと短歌に取り組み、今短歌、絵がみ、パソコン、吹き矢の教室に通いながら仲間と楽しい時間を過ごしている。

すれ違う車の中に夫を見るそんなはずない夫は天国百歳の詩人トヨさんは負けないできつといことあると呼びかける

麻痺の我を氣遣う息子に地震時は一人で逃げよと繰り返す

お前の打つ蕎麦がうまいと思師言う新そばは打ちて託す宅配

手を入れぬ庭に伸びたる藤の花宿木を覆いて自在に咲けり

古稀迎え子供らに優しくされて嬉しうな寂しいうな

唇に紅一筆引いて雪の道会に來ましたあなたの墓前

鬼は外ーいやいや鬼も来ておくれ訪れる人無き過疎の我が家へ

花に問うた自然は何故にそんなにもきれいな色を出せるのかと

空耳かどこかで夫の音がする盆に返りたるか愛しき人はお母ちゃんと呼んだ息子におふくると呼ばれ戸惑う我

三十余年たてどいまだ恋しい天国の夫

春なのに夏かと思うこの暑さ暑中お見舞いと悪戯メール

早朝に朝顔数える習いとなり昨日は三つ今日は五つとバス停に園児見送るばおりに水仙持ちて孫と談笑

間引き菜を多餡の一品と食卓に添えれば我も我もと著伸び来る

麻痺の手に汁椀載せて口元へ運べば小豆湯氣と香れる  
煎玉を焼いて願ったとんど焼き今は焼く子もなく行事次第に消え  
一日をどう過ごせばと紅葉手に眺めて知るは秋の訪れ  
夕暮れの茜の空にチツと鳴き聲に帰るか小鳥が三羽  
子に譲りし全ての家督口を出さず大樹になれと祈る  
親心

## 会員家族

### ふれあいの旅

安曇野市身障協会 浅原 重徳

秋の清々しい天候に恵まれた、9月29日、30日の両日、身障協会穂高支部の毎年この時期行う、会員及び家族の社会参加の一環である親睦を目的としたふれあいの旅として、今回は石川県、富山県方面へ1泊2日で行ってきました。

今年も大型リフト付きのバスで、会員12名を乗せ、朝8時に穂高支所を出発した。北に向かう途中、道の駅小谷で、トイレ休憩を取りながら、車窓からの景色を眺め、ガイドの説明を聞き、車中を楽しく過ごしました。

北陸道、糸魚川ICから砺波ICで下車。昼食は「井波木彫りの創遊館」で済ませ、その後、「井波彫刻総合会館」見学。この会館は、日本的な素材や構造を取り入れ、中庭とそれを取り囲む展示室が創り出す内部と外部のコントラストを強く印象づけながら、自然光

に大きく影響される寺院内部のような光と影のハーモニーを奏でている。欄



間は良くいわれる如く素晴らしく、家が建つと言われる程の代物。私には手が出ない。

北陸道砺波ICから能越道七尾ICで下車。和倉温泉「日本宿のと楽」に3時半頃到着。割り当て部屋に入り、一風呂入った後の親睦会は、乾杯の音頭で始まり、今回はカラオケなしで、生歌でいつもながら賑やかで楽しいひと時でした。

2日目は、和倉温泉を8時45分に出発し、宇宙科学博物館「コスモアイル羽咋」を見学、宇宙科学展示室を案内してもらいました。アメリカ合衆国とソビエト連邦の宇宙開発競争によって、人類は宇宙に向けて大きく歩を進める事となり、旧ソビエト連邦による人類初の宇宙飛行から、それを追うようにして打ち上げられたアメリカのマーズキュリー宇宙船。月を舞台にしたルナ計画、火星探査、それらの歴史を本物の宇宙機材を見ながら追っていきましよう、と説明を聞く。

北陸道水見ICから富山ICで下車。「源ますのすしミュージアム」で昼食見学し、皆さんはますますしゃやお土産をたくさん買い求めています。

北陸道富山ICから越中境PAでトイレ休憩を取り、糸魚川ICから国道148号線の道の駅小谷経由で、参加者の理解と協力により、予定の時刻に穂高に着。1人の病人もけが人もなく、無事に家路につくことができました。楽しい2日間でした。

## 11名で

### 盛り上がった

### ボッチャ

飯綱町身障協会 廣瀬トミ子

令和元年11月9日(土)飯綱町天狗の館を会場にして飯綱町身障協会の「障害者のつどい」が開催されました。

参加者11名、サンアップルから2名の指導員さんに来ていただき、パラリンピックの競技であるボッチャの体験を指導していただきました。

当日は秋晴れにも恵まれ会場は室内ではありましたが、窓から差し込む太陽のぬくもりが会場内を暖め、参加者を包み込んでくれました。

初めにボッチャの競技の説明をしていただき、その後参加者全員がボールを持ち、ボールの感触を掴みながら体のストレッチをゲーム感覚で30分程行



いました。3人1チームになり、3回戦で試合をし、途中で指導員さんからボールの投げ方、ボールの止め方などのコツを指導していただくと、皆さんみるみる上達してジャックボールの近くに投げられる事ができるようになり、掛け声と共に熱も上がりますます盛り上がりしました。

試合後、昼食の準備ができる間、温泉に入ったりとリラックスされ、昼食の宴を楽しみました。

しばらく顔を見られなかった会員さんの姿もみられ、人と触れ合う事にも元気をもらいこのような交流は大切だと思えました。会員の皆様も高齢化に伴い、体調がすぐれなかったり外出が困難だったり、参加人数も年々少なくななりつつありますが、できることはお互いに支え合い、助け合ってまた、大勢の会員様のお顔が見れたら嬉しいなあ〜と思えました。

### 社協主催の

## 《希望の旅》に参加しました

千曲市身障協会 柳澤 富子

千曲市社会福祉協議会では、11支部合同事業として年一回「障がい者希望の旅」を行っています。2019年10月10日「大人の社会科見学」として行われ、松本市時計博物館の見学・石井味噌で見学と昼食事・安曇野市堀金のゴールドバック(株)あずみ野工場見

学のコースです。幸い天気にも恵まれ、みんなの笑顔に乗せ大型リフト付きバスでさあ出発!

まずは松本市時計博物館です。中世から近代、現代、未来の時計としてあまりに多種多様な時計を目の前にして、その動きの面白さや珍しい形・美しさに見入ってしまい時間が足りない位でした。

味噌を作り始めて140余年信州三年味噌醸造元の石井味噌の蔵の中は本当に歴史を感じさせる雰囲気です。大きなみそ樽の前で、三年かけて出来る三年熟成味噌の赤みそ・白みそなどの説明を聞いた後ははいよいよお昼ご飯です。ほんのり甘い味噌の香りのする昼食はおいしものばかり、量も多く、残すほどでした。楽しいひと時の後はお土産の買い物です。古い建物なので車椅子で動くには少々狭く大変でした。それでも頑張つて何種類かお土産を買い込んでしまいました。石井味噌を後にしていよいよ安曇野へ。



庭園のきれいな白い大きな建物が目えて来ました。野菜ジュースを日本で初めて生み出した、飲料水でも有名な「ゴールドバック安曇野工場」です。どんな工場見学が出来るのかワクワクしながらバスを降り工場に入ると、さ

あ大変!!見学するはずの場所が二階にありエレベーターは有りませんとのこと。何で?運搬用エレベーターも無いの?普通お客様用がない所でも運搬用に車椅子の人を乗せてくれるはずで、私も何度か体験しています。階段を利用出来る人は皆さん二階へ。見学時間は約一時間車椅子利用者4名・足の不自由な人・付き添いのお母さん等7・8人がここで待つことになりました。ここまで気が付かなかったと今回の旅を決めた係の支部長さんが困り果てていました。車椅子利用者連れの旅で先ず考える事は、健全常者も障がい者も(特に車椅子利用者)皆同じ行動が取れる場所かを決める事なんです。(ユニバーサルデザイン)



楽しい旅が少々残念な事に終わりましたが、支部長さんを責める気はもうとう有りません。楽しい旅の一日をどうも有難うございました。記念写真を撮り帰路につきました。

### 文芸欄

飯綱町身障協会 高野 修

俳句一句

松の峰 雀轉る 去年今年

### 賛助会員加入のお願い

- 長野県身体障害者福祉協会の活動に賛同し、ご協力いただける個人及び団体を募集しております。
- 賛助会員には、月刊「日身連」及び機関紙「こころの友」(年2回)の送付、また協会主催の行事へのご案内を送付いたします。
- 会費は、●個人会員、年一口 2,000 円、●団体会員、年一口 10,000 円です。
- 入会ご希望の方は、長野県身体障害者福祉協会 ☎ 026 (228) 0317 までご連絡ください。

### オートボックス カー用品販売

身障協会員の特典割引をもう御利用ですか?  
 お買い物割引 5% 車検割引 1,000 円  
 売上金の一部は所属協会の収益財源にもなります  
 長野店 中野店 佐久店 塩尻店  
 川中島店 上田店 松本店 諏訪店  
 吉田店 しおだ野店 穂高店 諏訪インター  
 以上のお店が適用です/詳細は県事務局まで





# 信州あいサポート運動について



©長野県アルクマ

## ～共生社会の実現を目指して～

あいサポート運動は鳥取県が提唱して2009年に始まり、長野県も2013年に始めました。現在、「あいサポーター」は63,021人、あいサポート運動を積極的に普及活動してくれる「あいサポートメッセンジャー」は277人。あいサポート運動に賛同して、積極的に研修に取り組んでくれる企業・団体は124社になっています。(2019年10月末)

### 研修を受けた方々のお声を聞きました。

#### ○県内の中学校

あいサポーター研修を受講した3年生が近隣の特別養護老人ホームで清掃ボランティアをした際、職員から「今回、雰囲気違いますよね」という感想をいただいた。理由を尋ねると「構えたり、引いたりせず、普通に明るく元気よく入ってきた」ように見えたそうだ。3年生の総合学習の中で、あいサポーター研修を取り入れた事を伝えると、「そのような本質的な勉強を学校でもらえるのはありがたい」と職員の方が話されていた。

また、元々機械をいじるのが好きで工業系の進路を考えていた生徒が、「高齢化社会になっていく中で、将来は障害を抱えた人が普通に暮らせるような機械を開発したい」と志願理由を記入していた。どういう形で社会に貢献できるのか自分なりに考える事ができるようになったのだと感じた。

#### ○女性 20歳

駅前のバス乗り場で、誰かに向かって声を掛けたという訳ではないが、白い杖を突いた視覚障害の女性が、「6番乗り場はここですか。」と言われた。

自分よりその女性に近い位置に若いサラリーマン風の男性がいたが、スマートフォンを操作しており、聞こえないふりをしていた。

私は、あいサポーター研修で視覚障害の方へのお声掛けの仕方を習っていたので、「はい、ここは6番乗り場ですよ。」と話しかけ、この女性が自分と同じバスに乗りたいことがわかったので、バスが来た時、自分の腕を握ってもらって一緒に車内に入り、女性が座りたいと言った乗車口横の座席に案内した。

あいサポーター研修を受けていたおかげで、視覚障害の人に声を掛け、誘導するという勇気が持てた。

あいサポーター研修を受けて、それが活かされたとき、それは障害者、高齢者の方々のためではありますが、実践した受講者の方々自身も、気持ちが前向きになっていきます。こういう繋がりこそが、共生社会の実現のための、確実な1歩になります。

### 令和元年台風19号の災害について

昨年10月12日、県内に最接近、千曲川の堤防決壊等、各地で甚大な被害が発生しました。被災されたすべての皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

当日、気象庁は、長野市等に「大雨特別警報」を発表しています。そこでは「数十年に一度の」という言葉が使われています。驚くべきことは、このところ毎年必ず、日本各地で、この「数十年に一度の」気象災害が起こるようになってきているという事実です。協会の皆さんには、ぜひ、この災害リスクに備えていただきますようお願いしたいと思えます。この種の気象災害は、予報技術の進歩等によって、事前に、早めの対応、対策が可能です。市町村が公表している、洪水ハザードマップ等を参考にし、またお近くの河川の氾濫等の過去の経緯についての情報を得る等により、各郡市町村協会において、行政等と緊密に連携する中で、水害等の災害から協会員一人ひとりの命を守るために、発災時の情報伝達、避難方法、避難所等について入念に検討する等の諸施策を実施していただきたいと思えます。

県協会は、昨年度の健康福祉部長との懇談会において、「災害時の障害者支援体制の確立のための取組を要望する」として、具体的な5項目の要望をし、

避難行動要支援者名簿の作成及び活用について、避難所における障害特性に沿った合理的配慮の提供について、福祉避難所のバリアフリー化等、施設整備に遺漏がないようにすることについて等の要望をいたしました。また今年度は「障害者の立場に立った被災者支援の充実を要望する」として、以下のようにお願いたしました。『天災は忘れられたころにやってくると言われるますが、災害は想定しないところにやってきます。いわゆる想定外をなくすために、障害当事者を含めた、より多くの災害弱者の声、そこに込められた、知恵や工夫に、真摯に、耳を傾けることが大切であると考えます。まず、県、市町村等の災害対策に向けた会議や委員会に、身体障害者福祉協会を初めとする障害者団体の代表及び身体障害者相談員を初めとする障害相談員の代表の参加を実現していただくことが必要です。障害者は、急速に高齢化に向かう、この社会の未来を、現在において先取りして体験しているのです。多種多様な視点、意見を上記会議や委員会において取り入れて、想定外を極力なくしていくことで、天災による災害を、最小限に抑え込んでいくことが、防災の核心です。これは、その過酷さが、障害者に集中した、東日本大震災が私たちに与えた最大の教訓なのです。県は、創意的かつ発明的な対処により、障害者のこうした多種多様な視点、意見を、最も生産的、効率的に障害者及び広く社会に還元する方策を実行することで、この

教訓を、ぜひ活かしていただきたい。例えば、防災訓練を、身体障害者等要配慮者にも参加しやすく、体験しやすく、分りやすく、親しみやすい、防災フェアを取り入れたものに改善していただきたいと思います。参加する一人ひとりが最新の情報等と向き合い、防災を我が事として考え、困り事、心配事を明らかにし、その時、その場で、細心の知恵や工夫、想像力をもって、各人一人ひとりとつとめて、備えあれば憂いなしを実現していく場にしていただきたいと思えます。この実現のために、行政及びサービスを提供する事業者が、公共、民間の垣根を越えて、最大

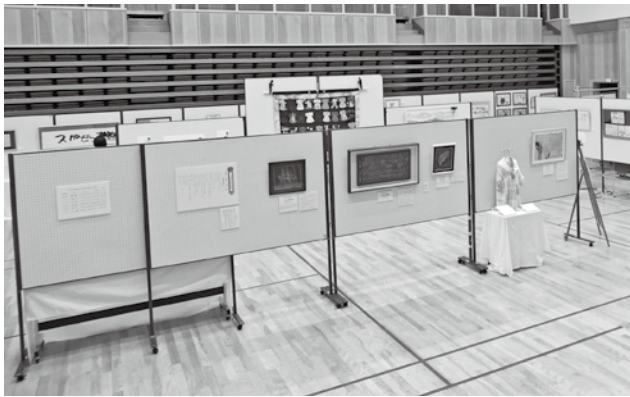
限の努力を傾注していただく場にしていただきたいと思えます。予想される物理的諸問題への対応、災害の地域性を踏まえての4ブロックに分けての開催等、とりわけ、想定外をなくすために、真のイノベーションが必要になる点、民間の知恵や工夫を喚起していただく巧みな政策が肝要となること、また、少子高齢化に向かい、地域防災の持続可能性を担保していくために、企業の社会的責任や社会貢献事業を、種をまくことから開花させるまでご配慮いただくこと等、障害者の立場に立った被災者支援の充実のために、創意的かつ発明的な対処をお願いします。』

## 第22回長野県障がい者文化芸術祭

第22回長野県障がい者文化芸術祭inうえだが9月14日(土)15日(日)の2日間、上田市丸子文化会館で開催された。

### ○知事賞のみなさん

- 絵画の部 増沢由紀子 (立科町) 「サザエサン」
- 手芸の部 平川 君井 (長野市) 「ふわふわベストとブローチ」
- 工芸の部 山内 修 (小諸市) 「愛(優)」
- 書道の部 石川 博 (伊那市) 「刻字杜甫孤鷹」
- 写真の部 金森 悦三 (高森町) 「しだれ栗雪風」
- 文芸の部 笠井 忠明 (長野市) 「記憶の逃げ水」



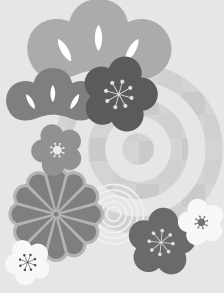
## 第71回 長野県身体障害者福祉大会 (予定)

開催日：2020年9月10日(木)  
 場所：志賀高原総合会館 98ホール  
 山ノ内町平穂7148  
 TEL 0269-34-3098

### あ と が き

明けましておめでとうござい  
 ます。  
 異常なまでの気候変化の中、皆  
 さまつつがなくお過ごしかと案  
 じております。  
 図らずも今年度、編集委員を  
 仰せつかり、もとより未熟者で  
 はございますが、少しでも皆さ  
 まのお役に立てればと、お受け  
 した次第です。これからよろし  
 くお願いいたします。

編集委員長 塩原敬治



### 業 務 内 容

- 総合印刷 あらゆる印刷物のプランニングから仕上げまでのシステムを自社内に整えています。  
各種記念誌/自費出版/文集/カタログ/チラシ作成
- 縫 製 オリジナルTシャツ、法被の作成。各種防災用品の販売、ピンバッジ等の各種オリジナル商品の企画・販売。

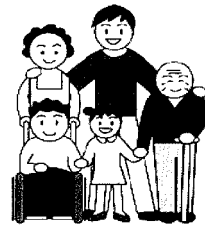


社会福祉法人 **ながのコロニー**  
 指定障害者就労継続  
 支援(A型)事業所 **長野福祉工場**  
 〒381-8580 長野市徳間1443 TEL 026-296-1411  
<http://nagano-colony.or.jp>

お気軽にお問合せ下さい。皆さまからいただいたお仕事は、障がい者の雇用促進につながります。

### 収益事業に ご理解とご協力を

日身連事業所は、各町内会・自治会のご協力を得て、回覧カタログによる収益事業と、皆様の福祉会からの「お茶」販売で県身障協と地元福祉会の財源確保のお手伝いをさせて頂いております。宜しくお願い致します。



### 日身連収益事業所

東京都渋谷区代々木5-57-6  
 所長 佐藤 宏  
 フリーダイヤル 0120-450-450